

《 1 月 例 会 ご 案 内 》

- ◇ 日 時 1月19日(日) 13時～15時
- ◇ 場 所 岡山県総合福祉会館 岡山市石関町2-1 (TEL. 086-226-3501)
— 駐車場は各自で確保してください —
- ◇ 参加費 1000円 [初参加の方は、別に入会金1000円]

第 1 部 《倉敷アカデミー・アンサンブル》による 《新春コンサート》

指揮者 江島幹雄
四重奏 第1バイオリン 第2バイオリン
 ビオラ チェロ
曲 目 癒しの名曲 なつかしのメロディー

- ☆ ご好意の演奏で、くつろぎのひとときを過ごし、
- ☆ 新しい年への希望とエネルギーをいただきましょう。

《倉敷アカデミーアンサンブル》— 江島教授を中心に、倉敷ジュニアオーケストラ出身者と音楽の好きな若手の音楽家で構成され、県外まで演奏活動をされています。また、倉敷の文化を高めるために、各メンバーは指揮者として、子どもたちを育てておられます。

第 2 部 例 会 行 事

- (1) グループ別話し合い
- (2) 『〈引きこもり〉とメンタルヘルスに関する調査』
— 日本精神保健社会学会調査委員会による —
協力：全国引きこもりKHJ親の会（家族連合会）

【 2 月 例 会 予 定 】

2月9日(日) ← ご注意！ 第2日曜日に変更

《パネルディスカッション》

佐々木正美先生 (川崎医療福祉大学教授)
小田 圭一 県議 (生活環境保健福祉委員長)
能登 邦彦 会長 (KHJ岡山きびの会)
県行政関係者・マスコミ関係者 (交渉予定)

【 3 月 例 会 予 定 】

3月23日(日) ← ご注意！ 第4日曜日です。

『 挫折からの挑戦 — 夢と希望に向かって — PART・2 』
～ 不登校・引きこもり体験を聞く ～

＜お知らせ＞

1月11日(土)午後 《フリーの会》

午前(10～12時)役員会

午後(13～16時)自由参加の会

→ 互いに胸の内を語り、親睦と交流を深めましょう!

→ <親父の会>もします。ふるってご参加ください。

場所 = 岡山市浦安西町62-1 阿部様宅 (別紙地図参照)

電話〔事前〕086-262-2743 〔当日〕086-262-2288

◆ 男子居場所(たまり場)の会

毎週土曜日 10時～12時

場所 = 出石小学校内「岡山きびの会」岡山市幸町10-9 (別紙地図参照)

● 女子居場所(たまり場)の会

1月25日(土) 11時～15時

場所 = 岡山市浦安西町62-1 阿部様宅 (別紙地図参照)

電話〔事前〕086-262-2743 〔当日〕086-262-2288

「引きこもり」実録映画「home」 &
NHK「引きこもりサポートキャンペーン」

引きこもる兄に弟がカメラを持って向き合い、脱出させた実録映画が話題になっています。
NHKが「クローズアップ現代」(9/19)、「ETV2002」(9/21)で取り上げました。

「岡山きびの会」で録画・コピーしています。ご利用ください。

NHK「引きこもりサポートキャンペーン」HP = <http://www.nhk.or.jp/hikikomori/>

11月15日

超党派《引きこもり対策国会議員連盟》結成

全国引きこもりKHJ親の会・本部より連絡がありました。

佐々木正美先生講演(10/20)ビデオ

— くり返し聞いて勉強しましょう —

- 皆様のご家族は〈平均的〉な家族で、決して特別な家族ではありません。
- 〈ままごと〉遊びをいやがる幼稚園児… 幼児が難しくなっている。
- 日本の高校生は韓・中・米に比べても、極端に〈自信〉を失っている。
- 行政は自らは動かないが、〈家族会〉が働きかければ必ず対応してくれます。

「岡山きびの会」へのご支援を訴えます

KHJ「岡山きびの会」

会長 能登 邦彦

《お願い》

現在、深刻な社会問題となった〈引きこもり〉は、〈不登校〉を含めると全国で160万人（県内2万人）〔30軒に1軒〕と推計され(*1)、ますます増大・高年齢化し、中には「家庭崩壊」の悲劇さえ起きています。

国政レベルでは、厚生労働省の引きこもり対応「ガイドライン」(01.5.8)(*2)に続き、超党派の「引きこもり対策議員連盟」も結成され(02.11.15)、ようやく光が見えてきました。

私たち「岡山きびの会」は、「全国引きこもりKHJ親の会」(*3)の20番目の組織として発足し(01.12.15)、1年間で約160家族が参加しています。私たちは多くの困難の中で、家族への支援と本人たちの自立のための努力を続けています。

会の内外の皆様方には、以下の《私たちの目指すもの》にご賛同をいただけますならば、ぜひ格別のご支援・ご篤志を賜われますよう、よろしくお願い申し上げます。

《私たちの目指すもの》

- (1) 〈ひきこもりの家族会〉として、会員相互に支え合い・学び合う場である「岡山きびの会」を、全力を尽くして存続・発展させること。
- (2) ひきこもりの症状（境界型を含む）に応じた対応ができる医療機関・相談機関などとの情報ネットワークを確立し、随時会員に紹介できるようにすること。
- (3) 行政や専門機関の支援のもとに官・民を問わず、訪問サポート(*4)あるいはデリバリー(救出)システム(*5)などの構築に参加・協力すること。
- (4) 本人たちの社会進出のためのステップとしての居場所(*6)、共同作業所(*7)、ボランティア活動、職業訓練、「職親」(*8)等の施設やシステムを創設していくこと。
- (5) 県議会「生活環境保健福祉委員会」を通して、県議会の理解と支援を求めるとともに、県民福祉の重要課題の一つとして継続的に取り組んでもらえるよう、国政レベルにならって超党派の支援体勢を求めていくこと。
- (6) 不登校問題を中心とする各地の「親の会」「フリースペース」など(*9)とも連携し、相互の交流・情報交換を図る。また、必要に応じて学習会・講演会の共同企画などを行なうとともに、教育と保健福祉という行政での担当部署の違い(*10)を超えて、県行政の統一的で積極的な対応と施策を求めていくこと。将来的には全県的な連合組織も必要と思われる。
- (7) 「岡山きびの会」の恒常的な発展のためには、できるだけ早くNPO（非営利組織）法人(*11)として活動できるようにすること。その中で、不登校や引きこもりを生み出さない道筋をも探究していくこと、及び次代の担い手(*12)をも育てていくこと。

《 私 たち の 思 い 》

厚労省のガイドラインでは、①ひきこもりは誰にでも起こりうること、②なまけや反抗ではないこと、③過保護や放任など過去の家族の問題が原因とは決めつけない、④対処の仕方しだいで解決できる問題 — との援助の原則が明確にされました。

私たちはこの指針に大きく励まされるとともに、不登校や引きこもりがどの家庭にも起こりうるものならば、社会に出られないで今苦しんでいる子どもたちの声なき声（魂の叫び）は、現代社会への警鐘、未来へのメッセージと受け止めるべきではないか、と思うようにもなりました。

「岡山きびの会」に会えたこと、仲間である他の親たちと会えたことで、私たちは自分の家族と自分の子どもを見直すことができるようにもなりました。

引きこもりの若者たちはほとんど皆が〈やさしく〉、〈シャイ〉で、〈ゆっくり〉という特性を持ち、内面では〈社会参加・社会貢献〉を強く望んでいます。

この若者たちの特性と知性と体験を生かし、社会に貢献でき、自らも生活していける仕事の間を創り出していくことを、私たち親の会の究極の目標にしたいと思います。人と自然へのやさしさと共生をベースに、この若者たちが高齢者と幼い子たちと母親たちをも結び合わせて、人々の新たな絆を生み出してくれることを願うものです。

会内外の志ある皆様方に、「岡山きびの会」へのご支援と励ましを、そして共に歩んでくださいますよう、重ねてお願いいたします。

「岡山きびの会」 〒701-0111 倉敷市上東1244-9 能登教育コンサルタント事務所
連絡先 TEL.090-3881-9345 (きびの会専用携帯電話)
TEL.0868-23-3294 (会長代理・川島)
TEL.086-424-7162 (事務局・織井)

— 注 —

- *1) = 推計数字は「〈全引連〉ニュース『旅立ち』No11」(02.11.14)より。
- *2) = 「1.0代・2.0代を中心とした〈社会的ひきこもり〉をめぐる地域精神保健活動のガイドライン(暫定版) — 精神保健福祉センター・保健所・市町村でどのように対応するか・援助するか — 」(01.5.8)厚生労働省
- *3) = KHJは「強迫神経症・被害妄想・人格障害」の頭文字で、厚労省対策の用語。会の略称は〈全引連〉。02年末に都道府県組織は30を超えている。
- *4) = 岡山県は02年度予算に144万円を計上、すでに実施を始めている。
- *5) = 埼玉県は「訪問対話士」育成ワーカー・プロジェクトに補助金。さらに官民一体の「埼玉メンタル・デリバリー協会(SMD)」設立を目指している。
 - ・全引連KHJ本部は、埼玉で作られる「訪問対話士育成教本」を全国に提供し、各地での「メンタル・デリバリー協会」を促していく方針。
- *6) = デイ・ケア、フレンド・スペース、グループ・ホーム、などと呼ばれている。
 - ・埼玉県、長野県・市、等で助成金、神戸市・名古屋市も検討中。
- *7) = 長野県・市は運営費・備品などを補助、県精神保健福祉センター・市保健所も支援。
- *8) = 賃金の一部を助成する「職親」制度の創設を坂口厚労相が表明。
- *9) = 「相談ネットワーク」「FUTURE」等の資料によれば20数グループ。
- *10) = 不登校の親の会の交渉窓口は県教育委員会指導課、引きこもりの親の会の交渉窓口は保健福祉部健康対策課。
- *11) = 県は02年に「NPO支援センター」(石関町)を開設し、05年には国立岡山病院跡地(南方)に「岡山NPO会館」の建設を予定している。
- *12) = 現在、会には20歳代の男女ボランティア3名が参加してくれている。